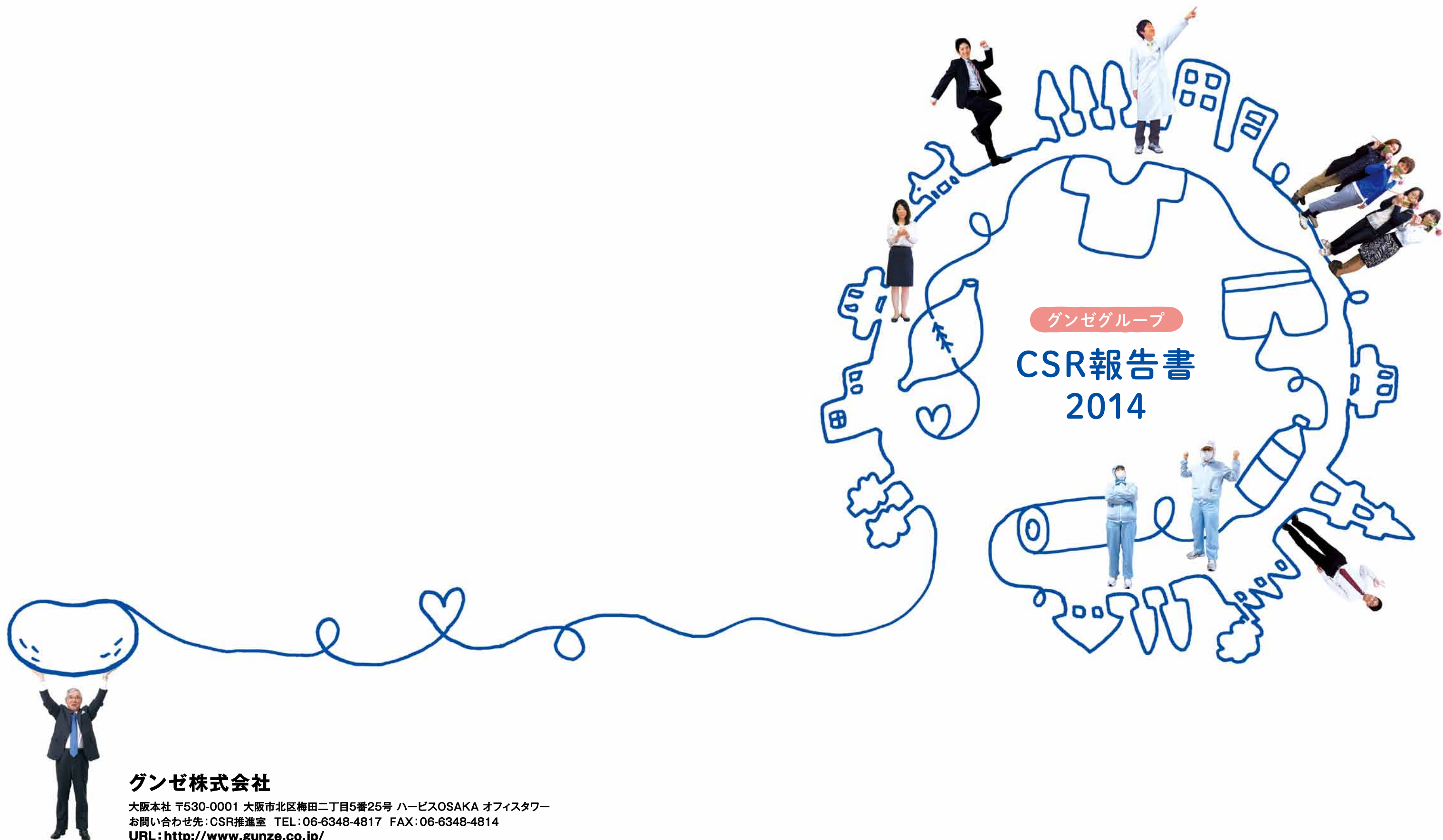


明日をもっと、**こ**こちよく

GUNZE



グンゼ株式会社

大阪本社 〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKA オフィスタワー

お問い合わせ先: CSR推進室 TEL: 06-6348-4817 FAX: 06-6348-4814

URL: <http://www.gunze.co.jp/>



明日をもっと、**こ**こちよく GUNZE

「明日をもっと、こちよく」。

それはグンゼが生みだすもの、行うこと。すべてを貫く、新たな1本の^{たていと}経糸です。

事業展開、商品の品質、職場づくり、
ステークホルダー^{*}や、地球環境に対しても ——

‘こちよさ’の輪をひろげ、社会に貢献。
そんな、わたしたちのCSR^{*}活動をご紹介します。

アパレル事業

インナーウェア／レッグウェア／
ハウスカジュアル／ 繊維資材

人の手と目を介した徹底した品質管理で、
お客さま起点の商品をお届けしています。

着ごち



使いごち



居ごち



機能ソリューション事業

プラスチックフィルム／エンジニアリングプラスチック／
電子部品／メカトロ／メディカル材料

繊維の技術力を活かし、優れた機能と付加価値を
併せ持つ製品を提供しています。

ライフクリエイイト事業

商業デベロッパー／スポーツクラブ／温浴／
エステイト開発／エンジニアリング／緑化

商業施設やスポーツクラブの運営など、笑顔を
育むサービスを提供しています。

※については巻末折り返し部分の用語集をご参照ください。

INDEX

ブランドステートメント	1	④従業員との関係において	17
グンゼグループ事業概要	2	⑤地球環境のために	21
トップコミットメント	3	CSR活動優良事業所表彰・CSR検定	24
特集① 人財座談会	5	⑥株主・投資家のために	25
特集② グンゼグループのCSRと事業の変遷	7	環境データ	27
コーポレートガバナンス [*] 体制の概要／ 内部統制システムの運用状況／CSR基本方針	9	人事・労務データ／社会貢献活動データ	29
①消費者のために	11	会社概要	30
②取引先との関係において	13	第三者意見	31
③地域社会のために	15	用語集	32

グンゼのCSRに関する
データや最新情報は
WEBサイトをご覧ください



製品・サービス情報

個人のお客さま、ビジネスのお客さまごとに、製品
とサービスの詳しい情報を掲載しています。

企業情報

企業データや拠点情報のほか、基本的な企業
姿勢について紹介しています。

採用情報

新卒・キャリア採用の募集情報や、会社紹介を
行っています。

CSR（企業の社会的責任）

本報告書の掲載情報のほか、CSR関連の最新情報
やNPO法人との連携等について紹介しています。

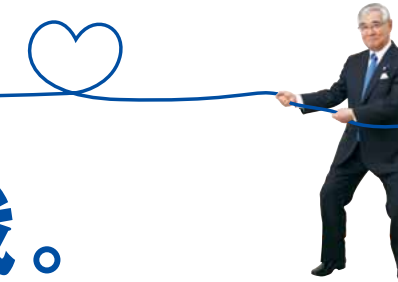
株主・投資家情報

最新のIR^{*}情報のほか、個人投資家向け情報、
株主還元方針やIR方針、各種の株式情報を掲載
しています。

●対象期間／原則として、実績データは2013年度（2013年4月1日～2014年
3月31日）分を記載していますが、活動内容は一部2014年4月以降の
ものを含んでいます。
●対象範囲／グンゼ株式会社と国内外の子会社（非連結含む63社）

●参考になっているガイドライン／GRI (Global Reporting Initiative) の
「サステナビリティ・レポートガイドライン第4版」、環境省「環境報告
ガイドライン2012年版」
●発行／2014年6月（次回発行予定：2015年6月）

全員の心と力を結集して、新たな飛躍に挑戦。



新中期経営計画「CAN20」スタート!

過去10年を振り返ると、リーマンショック以降、主力事業・主力商品の成熟化や成長エンジンであった機能ソリューション事業の伸び悩み、新規事業開発・グローバル販売の停滞等により、10年前に比べて売上・利益水準が大幅に低下しています。

これらの反省・課題を踏まえ、今年度より新中期経営計画「CAN20」をスタートさせました。計画期間は2020年までの7年間とし、2014年度からの3年を第1フェーズ、2017年度からの4年を第2フェーズとします。計画立案においては、マクロ的視点で7年後のあるべき姿(事業ビジョン)を描いた上で、第1フェーズの2016年度末の着地点を決め、実行計画を策定しました。創業125周年である2020年にどのような姿(事業ビジョン)であるべきか、それぞれの事業部門についてもビジョンを明確にしています。

名称の「CAN20」には、「私たちはやればできる」という意志、必ずやり遂げるという決意を込めています。「私たちはやれる、やればできる」という気持ちを強く持ち、新中期経営計画の達成に向けて取り組んでまいります。

「集中と結集」～Focus & Concentration～

「CAN20」のキーコンセプトは「集中と結集」です。限られた経営資源(ヒト・モノ・カネ)で厳しさを増す経営環境に対応するために、当社の強みを生かし、社会に貢献できる有望分野・市場に「集中」し、心と力を「結集」してビジネスを強化します。

そこで多角化した事業にメリハリをつけて経営資源の配分を行うため、当社が展開している事業をSBU^{注1}に区分し、SBUごとに対象市場の魅力度、対象顧客への提供価値の裏づけとなる「コアコンピタンス^{注2}」を評価し、その評価に基づき、成長させるべきもの、成長は追わず収益力を強化すべきもの、縮小・撤退すべきものに区分しました。グループ全体においては事業の成熟化により、全SBUのうち約6割が収益力強化の区分となっておりますが、これらのSBUについては売上拡大を狙うのではなく、効率化を進め利益の最大化を目指します。そして有望な市場、もしくは自社のコアコンピタンスの競争力が高い重点SBUを中心に経営資源を投入し、事業拡大を図ってまいります。

^{注1} 戦略的ビジネスユニット。

^{注2} 他社との差異化を実現する当社の強みとなる保有技術や体制、ノウハウ。

^{注3} クロスファンクショナルアプローチ。

^{注4} 車、山前に到りて必ず路あり。『どんな困難に直面しようとも、進めば必ず道は開く』という意味。

新規事業の創出

～社会的課題の解決を目指して～

新規事業戦略については、CFA^{注3}プロジェクトとして組織横断的に取り組み、各事業部門が持っている顧客基盤と技術リソースを効率的に融合し、既存技術や設備を有効活用することにより、新規事業を創出してまいります。

具体的には、経営目標で掲げているクオリティ オブ ライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野の事業拡大に取り組んでまいります。そのため関連する情報や技術などを集約し、市場対応力を強化することを目的として「QOL研究所」を新設しました。QOL研究所には現在の「研究開発部」より医療関連の研究を移管するとともに、ニーズ探索・マーケティング・販路開拓等を担当する「企画調査室」を設置し、健康・医療事業の拡大にスピードを上げて取り組んでまいります。

グンゼ株式会社 代表取締役社長

兎玉 和

最後に

～全員の心と力を結集して新たな飛躍へ挑戦～

今年度は「CAN20」スタートの年であります。7年計画という少し時間があると思われるかもしれませんが、変革を成し遂げるには、決して余裕のある期間ではありません。お客さまに「こちよざ」を提供し続ける企業を目指して、「車到山前必有路」^{注4}の信念で、全員の心と力を結集して、新たな飛躍に挑戦してまいります。



新中期経営計画「CAN20」の概要

計画名称

《新中期経営計画》
CAN20
(キャン トウエンティ)

キーコンセプト

集中と結集
(Focus & Concentration)

推進期間

2014年度～2020年度(7年間)
(2020年度は創業125周年となる)

第1フェーズ(2014年度～2016年度) 第2フェーズ(2017年度～2020年度)

2020年グループ経営ビジョン(2020年のありたい姿)

●経営ビジョン

グンゼが持つ強みをさらに強化し、グンゼにしかできない「こちよざ」をお客さまに提供するグローバル企業として社会に貢献する。

●経営目標

人々のクオリティ オブ ライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野を成長の核とするとともに、集中と結集によりそれぞれの分野で業界オンリーワンの地位を確立する。



社内推進用ポスター

2014年度経営方針

『車到山前必有路』の信念で
全員の心と力を結集し 新たな飛躍へ挑戦しよう

① 挑戦

- (1) ニーズの深掘りとコアコンピタンスの強化で市場をリードするオンリーワン商品を開発する。
- (2) CFA活動^{*}によりグループシナジーを活かした新市場・新用途・新チャネルを創造する。

② 新生

- (1) コアSBU^{*}への集中により事業構造を変革する。
- (2) 提供価値とコスト構造を再構築し、成熟した商品・サービスを新生させる。

③ 結集

- (1) 従業員満足度向上により、グンゼブランドへのロイヤリティを高める。
- (2) ダイバーシティ^{*}を活用する組織風土を醸成し、課題解決力を向上させる。

グンゼが目指す人財と組織風土



CSR推進室長
女性きらきら推進室長

林 直子

常務取締役
CHO※兼CCSRO※

服部 和徳

社外取締役

白井 文

人財開発室長

脇坂 範行

心と力を結集するために大切なこと

林：新中期経営計画CAN20のスタートにあたり、今後の「人財育成と組織風土づくり」についてお話を聞かせてください。

服部：創業当時は蚕糸業のみでしたが、当時から『善い人が良いものをつくる』という考えのもと、蚕の品種改良、技術者の外部機関への派遣や育成といった技術的な深掘りやナレッジマネジメント^{注1}に取り組んだこと、そして創業の精神を継承するというコアの部分＝経糸（たていと）^{注2}があったから、今日までさまざまな事業を立ち上げることができました。それが当社の強みであると思います。新中期経営計画では、各事業部門における戦略的ビジネスユニットの強みやコアコンピタンスを横串で貫き、当社の強みをさらに伸ばし、**当社にしかできない‘ここちよさ’をお客さまに提供したい**と考えています。それがCAN20です。

白井：今後、グンゼが‘ここちよさ’をアピールして多くの消費者、生活者に納得してもらい認めてもらうには、**現場力・チーム力**が

必要です。そして現場力を上げるためには、管理職の姿が重要になるでしょう。管理職がどういう意識、どういう価値観で行動しているか、完璧でなくても努力する上司が目前にいてくれるだけで、部下は元気をもらえenと思います。

脇坂：チーム力を発揮するには『職場の風通し』『組織の一体感』が不可欠ですが、これらに対する**管理職の寄与度・影響度はとても大きい**。このような視点から管理職を含め、組織活性化につながるファシリテーション[※]研修を継続的に実施しています。また、管理職が部下との目標管理面接を定期的に実施するとともに、ATG活動^{注3}に積極的に参画してもらうように、人財開発室としてしっかりフォローアップしていきたいと考えています。

服部：社長の児玉さんが「**グループではなく、チームを目指す**」と言われています。チームには明確な目標があり、目標を達成するためにチームを編成し、生かすのが現場の管理職の仕事で、チーム力をどう高めるかは上位層の仕事だと思います。全従業員が共通の目標・ゴールに向かって、自分の意見や考えていることを出し合えるよう、コミュニケーション力を高めていかなければなりません。今は、ATGや“女性きらきら^{注4}”が**コミュニケーションを活性化するための雰囲気づくり**に役立っていると思います。



^{注1} 各事業部門や個人の持つ技術・知識の共有化を図り、それを全社的に活用すること。^{注2} 変えてはならないもの＝創業の精神、社是、行動規範、三つの章句、ブランド憲章等。^{注3} 従業員満足度を向上させるための全社運動「明るく楽しく元気よくプロジェクト」の略称。^{注4} 女性が活躍できる組織にするための全社運動「女性きらきらプロジェクト」の略称。^{注5} 更年期世代の女性のために、肌へのストレスを軽減するよう開発された当社のインナーウェア。^{注6} 毎月第一水曜日。グンゼの商品やブランドを家族や友人・知人に広報宣伝することにより、グンゼファンを増やす活動。^{注7} 社会からの期待に応え変えていくもの＝経営戦略、事業内容、商品、サービス等。

林：全員の力を結集するためには、『管理職の姿勢』と『お互いに遠慮なく意見が言える雰囲気づくり』が大切なですね。

白井：トップダウンだけになると、やらされ感しか残らずうまく進まないのですが、ボトムアップ型の小集団活動[※]なら仕事に対するやる気や興味を高められると思います。先日出席した『小集団活動発表会』では、発表者の方が科学的・論理的に仕事を分析して活動を組み立てて、第三者が理解できるように発表していました。あれはまさにグンゼのDNAです。

服部：小集団活動はメーカーとして『モノづくり』の基本であるし、指導を通じて管理職がメンバーの話を聴くことも大切です。これからもしっかりと取り組んでいきたいen思います。

脇坂：再び研修の話となりますが、コミュニケーション力向上を目的として、階層別研修をはじめ各種研修においてグループワークをできるだけ増やすとともに、論理的思考力を高めるカリキュラムも充実させていきます。そこで習得したスキルを小集団活動、チーム活動に活用することで全体の組織力も上がってくると思います。

白井：今がグンゼの正念場です。未来のために何ができるかということと、地に足を着けた現実を見据えた取り組みによってみんなが同じ方向に進んでいけば、良い結果になるの

ではないかen思います。

服部：私個人として心がけているのは、**消費者目線のモノづくりが大事**だということです。お客さまがお困りの点にフォーカスした提案や価値を提供できているかというen、現時点では必ずしもそうではないen思います。

白井：社員も消費者であり、生活者ですから、その視点をうまく仕事に活かしていきたいenですね。

服部：女性マーケットも大事になってくるし、もっと女性社員の声を活かしていかなければenと思います。

白井：グンゼの女性社員とご家族が、こぞってグンゼ製品を愛用して口コミで広げばいいですね。

私もキレイラボ^{注5}を愛用していますよ。

脇坂：『みんなが広報室員の日』^{注6}や女性きらきらプロジェクトを通じて拡大していければenと思います。



CAN20達成に向けたメッセージ

林：最後にCAN20達成に向け、一言ずつお願いしたいenと思います。

脇坂：3つ挙げたいenと思います。

1. 仕事・研修の機会拡大によるキャリアアップへの場づくり
2. 多様性を育み、これを活かす組織づくり
3. 挑戦する人に応える人事制度づくり

初年度である今年は、人財力強化のために**キャリアローテーションを積極的に推進**していきます。また、一般職研修を含め、現場力の強化につながる形で研修を拡充させていただきます。



白井：今回、「会社として本気でやるぞ」という意思表示のためにも、CAN20を現場の隅々まで浸透させることが最初に必要なことだと

思っています。**経営陣が自ら現場に出向いてCAN20を説明し、みんなと意見交換**することも方法の一つではないでしょうか。これだけ厳しい時代にさまざまな課題に向き合って逃げずにチャレンジすること、そういう組織であり続けることは難しいことですが、自分が部長だったら、取締役だったら、社長だったら、お客さまだったら、株主だったらと、**自分の現在の役割より高いところから組織を見る習慣**をつけると、見えなかった壁や課題が見えてくるenと思います。より高いスタンスで物事を見られる人が増えていくことが重要だenと思いますし、そうあってほしいen願っています。

服部：WE CAN。やればできる！ CAN20は2020年まで、7年間の目標を掲げて進めていきます。7本の緯糸（よこいと）^{注7}をしっかりと通していくために、自らの業務目標にCANを織り込んで、自分の仕事をしっかりとやってほしい。**CAN20で緯糸（よこいと）と一緒につくっていきましょう。そして経糸（たていと）はお互いに連携して一緒に感じていきましょう。**

林：力強いメッセージをいただきました。いろいろな意見が言える場づくりを進め、2020年のあるべき姿に向かって、心と力を結集していきます。本日はありがとうございました。

※については巻末折り返し部分の用語集をご参照ください。

CSR活動とともに取り組む事業 内容。 連綿と続く、‘ここちよさ’追求への 想い。

当社は1896年、京都府綾部市に地域産業の振興を目的として設立され、社名を「郡の正しい方針」という意味の「郡是」製糸株式会社と定めました。その後も経営の根幹は人であるとし、人を活かし、人を育て、人を大切にする社風の醸成を図るとともに、創業の精神を経糸にさまざまな事業に挑戦し、変革を続けてまいりました。今後も社是の実践を通じてお客さまの‘ここち満足’を高め、お客さまとともに‘ここちよいライフスタイル’を創造し続けます。

経糸 変えてはならないもの

- 創業の精神
- 社是
- 三つの章句、三つの躰
- グンゼ行動規範
- ブランド憲章
- ブランドステートメント

緯糸 社会からの期待に応え、積極的に進化させるもの

- 経営戦略
- 事業内容
- 商品・サービス
- システム・仕組み

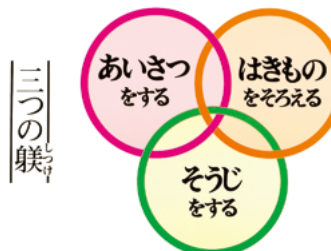
社 是

1. 優良品の提供に徹し 社会に貢献する
1. 誠意をこめて 信頼の輪をひろげる
1. 若さと創意をいかし 世界の一流をめざす

CSRの原点

創業の精神

人間尊重と
優良品の生産を基礎として
会社をめぐるすべての関係者との
共存共栄をはかる



1896 ①

①生糸事業

(1896年～1987年)

繭(まゆ)の改良と精良優美な糸づくりを開始しました。



創業初期の製糸場(現在の綾部市)

②絹靴下事業(1934年)

→ナイロン靴下事業(1952年～)

1934年、フルファッション靴下*の生産に着手。1952年、日本で初めてナイロン製のフルファッション靴下の生産に成功しました。1968年にパンティストッキングが登場すると、「シア・ペーヌ」などのヒット商品を送り出しました。



③メリヤス事業(1946年～)

メリヤス事業の創業者は「品質第一主義の徹底」「共存共栄の実践」「一貫生産体制の確立」の基本方針を掲げ、高品質の肌着生産の基礎を確立。初期生産の裏毛メリヤス肌着は東京の大手百貨店で好評を博しました。



④ミシン糸事業(1954年～)

生糸事業の縮小にともない、ナイロンミシン糸の生産を開始。その後、ウーリーナイロンミシン糸*などを開発し、1972年にはポリエステルスパンミシン糸*を発売。現在はその技術を活用して自動車のエアバッグ用のミシン糸も生産しています。



⑤メカトロ事業(1955年～)

乳業向け洗機機の製造・販売からスタートし、現在は乳飲料、医療医薬、印刷業界等の省力化機器や検査・包装機器等を製造・販売しています。



⑥ライフクリエイト事業(1962年～)

1962年に不動産事業、1973年に緑化事業をスタート。1985年には靴下の主力工場の跡地に商業施設(つかしん)をオープンし、同時にスポーツクラブ「グンゼスポーツ」の運営を開始しました。



⑦プラスチックフィルム事業(1968年～)

1962年に塩ビチューブ収縮フィルムの開発に成功。1968年から守山工場では本格的にプラスチックフィルムの生産を開始しました。いまではシュリンクフィルム*、OPPフィルム*、ナイロンフィルム等を生産・販売しています。



⑧エンジニアリングプラスチックス事業(1983年～)

プラスチックフィルム分野から発展したエンジニアリングプラスチックス事業では、複写機やプリンタなどのOA機器や産業分野の製造工程で使われる機能部品を生産・販売しています。



⑨電子部品事業(1985年～)

透明導電性フィルムの開発に成功し、現在はスマートフォン等に使用される静電容量タッチパネルをはじめ電極フィルム、コーティングフィルム等をグローバルに生産・販売しています。



⑩メディカル材料事業(1986年～)

繊維とプラスチックの高分子に関する知見を活用し、1986年に国内で初めて体内で分解吸収される手術用縫合糸の実用化に成功。2011年には生体内吸収高分子の加工技術を応用し、生体吸収性血管再生基材*を開発、血管再生の臨床試験を開始しました。



GUNZE

ブランド憲章

世界の
より多くの人々に
‘ここちよさ’をお届けしたい

そのために私たちは
人を想い 暮らしを見つめ
お客さま起点で‘ここち品質’を追求します

そして‘毎日のここち満足’を高め
お客さまとともに‘ここちよいライフスタイル’を
創造し続けます

2012

行動規範

- 第1章 グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします
- 第2章 グンゼは、世界に通じる公正なルールにのっとり活動します
- 第3章 私たちは、なにごとにも積極果敢に挑戦するとともに、良識をもって行動します

1998

1976

8 9 10

1969

3 4 5 6 7

1 消費者のために

お客さまに‘こころよさ’をお届けするために

お客さまの‘こころよさ’のために。お客さまの声に耳を傾け、お客さまの目線で‘こころ品質’を追求し、信頼と満足度の向上に努めます。

活動① お客様相談室での対応

お客さまの声を全社で共有し、全てのお客さまに‘こころ満足’をお届けできるよう、お客様相談室では日々改善活動に取り組んでいます。相談室に寄せられるお問い合わせの約9割がアパレル関連で、そのうちの42%が売り場照会について、28%が商品の内容についてです。2013年度は商品に対する具体的なご意見、ご要望が約600件あり、それらを取りまとめて事業部門へフィードバックし、お客さまの声を反映した商品開発や改善に活かしています。

また、クレームやご意見に対しては原因を調査するため、各事業部門と連携を図りながら迅速、的確かつ丁寧に対応するよう心掛けています。

●2013年度お客様相談室へのお問い合わせ件数 … 28,521件
(アパレル関連 91%、機能ソリューション/ライフクリエイティブ/その他 9%)



お客様相談室

『お客さま満足度アンケート』を実施

<実施期間:2013年10月~2014年3月(6ヶ月間)>

お客様相談室を窓口としたクレーム対応が、お客さまからどのような評価を受けているかを正しく把握し、今後の改善の指針とするため、『お客さま満足度アンケート』を実施しています。

アンケートにご協力いただいたお客さまからは「概ね満足」とのご回答をいただきましたが、不満の理由の多くは「対応スピード」とご送付いただいたクレーム品に対する「交換品や返金」に関してであることがわかりました。今後もお客さまのご意向をしっかりと確認し、事業部門と連携しながらお客さま対応満足度の向上に努めていきます。

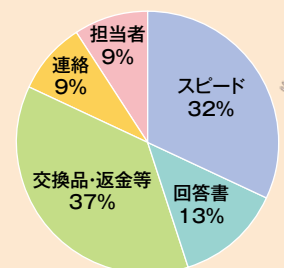
■お客様相談室での対応件数

項目	該当件数	率	備考
クレーム登録	1,905件	—	—
アンケート送付	1,410件	74.0%	送付数/登録数
アンケート回収	707件	50.1%	回収数/送付数
コメント記載	609件	86.1%	コメント記載/回収数

■クレーム対応の満足度評価(5点満点)

評価	対応件数	率
5	473件	67.6%
4	158件	22.6%
3	28件	4.0%
2	25件	3.6%
1	16件	2.3%
合計	700件	
平均評価	4.50	

■不満の理由



担当者の声

お客様相談室
江川 公美

お客さまの立場に立って耳を傾けます。

お客様相談室には毎日、100件以上の電話が寄せられます。内容はさまざまですが、お客さまの立場に立って耳を傾けることで、いろいろな商品に関するヒントもいただけます。これからもお客さまとグンゼを結ぶ架け橋という意識を持って、お客さまとのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。

活動② アパレルカンパニーのお客さま対応

アパレルカンパニーの品質統括室では、インナーウェア、レグウェア、ハウスカジュアルウェアの品質保証に関する業務を統括しています。お客様相談室に寄せられたお客さまからのお問い合わせに対して、各事業部門に専任の担当者を配置し、迅速かつ丁寧に対応しています。



クレーム原因を分析している様子



アパレルカンパニー
レグウェア事業本部
MD戦略本部技術開発課
塩見 妙子

お客さま視点で、真の原因を究明できるよう細部まで観察します。

お客様相談室経由で承った情報と届いた商品をもとにクレーム原因を分析するものの、中には何が起ったのかを推測しなければいけない難解なお申し出もあります。そうした場合も、生産工場や企画担当者と連携を図りながら、迅速に対応するよう心掛けています。お客さまと直接お話をさせていただくこともあり、緊張して身の引き締まる思いですが、お気持ちを察しながら「グンゼの商品を買って良かった」と思ってもらえるように、常に誠意をもって対応したいと思います。

活動③ アパレルカンパニー インナーウェア事業本部の品質管理

インナーウェア事業本部技術統括部カスタマーサービスセンターでは、国内外の工場から良品として出荷された製品のうち1%を抜き取り、100以上の項目を検査しています。正常な状態が頭の中に画像としてインプットされているため、異常があればすぐに発見することができます。

検査を通して重大な不良品が見つければ、すぐに生産工場に連絡して点検依頼を出し、必要であれば出荷品の点検も行います。こうして原因を究明し、改善が完了次第、生産を再開します。

また、通常の検査とは別に新商品を生産する前に、年間1,000件ほどの初物監査を実施しています。設計通りに作られているか、仕様、寸法、品位、洗濯縮率、染色堅牢度、資包材、表示文言等を確認し、問題がないことを確認した商品についてのみ、初めて生産開始となります。



カスタマーサービスセンターでの検査工程

<主な検査項目>

- 製品本体が規格通りに仕上がっているか?
- 生地不良はないか? (原糸不良、編み不良、色目、加工不良)
- 縫製不良はないか? (縫い目調子、縫い外れ、糸端始末)
- 資材・仕上げ不良はないか? (しわ、変形、量み方不良、Pマーク、レース不良)
- 包材不良はないか? (家庭用品品質表示法違反、表示間違い、印刷不良、ハンガー不良等)



アパレルカンパニー
インナーウェア事業本部
技術統括部カスタマーサービスセンター
江原 新子

グンゼならではの高い基本品質を責任を持って守っていきます。

検査担当者には、一つの現象を見て次に何が来るか、その背景に何が隠れているか、想像力を働かせることが求められます。そうした訓練を積み重ねることで、気づかなかった不良や見えなかったものが見えてくるようになります。また、お客さまの意識や嗜好は時代の流れとともに変化しますので、常にお客さまの目線で見よう心掛けています。当社にはメリヤス創業時から品質を重視してきた長い歴史があります。“これだけは譲れない”という基本品質はメーカーとしてしっかり守っていききたいと思います。

2 取引先との関係において

お取引先さまと ‘こちよい関係’を築くために

創業の精神である“共存共栄”をモットーに、公正・公平な関係のもと、お取引先さまとともに品質・安全性の向上に努めます。



活動① 反社会的勢力に対する対応

反社会的団体、反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を示し、これらを排除する姿勢を貫きます。お取引先さまとの関係においても、『グンゼグループサプライヤー行動規範』を再確認するとともに、反社会的勢力の排除に関する条文を盛り込んだ契約内容となるよう整備しています。

活動② お取引先さまとのコミュニケーション

事業活動のパートナーであるお取引先さまとの信頼関係を構築するとともに、社会的課題の解決に向け、一体感を持って取り組んでいます。メディカル事業部ではグンゼが持つストッキングの技術に応用し、医療用弾性ストッキングを製造しています。「下肢静脈瘤予防用弾性ストッキング」として販売いただいている、株式会社ジェイ・エム・エス様より当社に対するメッセージをいただきました。



下肢静脈瘤予防用弾性ストッキング

グンゼグループサプライヤー行動規範

グンゼグループは、「グンゼ行動規範」において、世界に通じる公正なルールに則り活動することを基本方針としています。

サプライヤー各位がこの行動規範の示す、法令の順守、有用かつ安全な製品・サービスの開発・提供、環境への取り組み、人権・人格・個性の尊重に関する基本方針に賛同されることを期待しています。

<法令順守について>

- 社会のルールを順守し、公正かつ自由な競争の中で企業活動を行う。
- 法令を順守し、常に高い倫理観をもち、反社会的行為は行わない。
- 国際ルールを順守し、関係各国の文化、慣習を尊重し、信頼される企業活動を行う。

<優良品の提供について>

- 企業活動を通じて社会に有用、かつ安全な製品・サービスを開発、提供する。

<環境保全について>

- 企業活動にあたって、環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努める。

<人権について>

- 人権・人格・個性を尊重し、人種・国籍・性別等による雇用と職業に関する差別を行わない。
- 児童労働、強制労働、過酷な懲罰等の非人道的な労働行為を行わない。
- 従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り、尊重する。

<労働について>

- 安全で清潔な作業環境を確保し、従業員の健康に配慮する。
- 労働時間に関する法律および賃金・福利厚生に関する法律を順守する。

<機密情報と知的財産について>

- 取引により知り得た技術、営業、個人等の機密情報の漏洩防止に努めるとともに知的財産を尊重する。

<贈答・接待について>

- 不当な利益等の取得を目的とする贈答・接待を行わない。

活動③ お取引先さまとの協働による消費者目線での商品改善

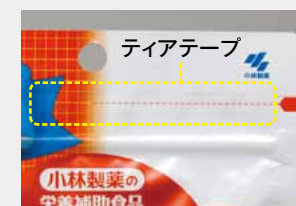
うん



健康食品パウチの改善

企画の背景

健康食品は高齢者が使用するケースが多く、力が弱くてもパッケージを開けやすいといった「ユニバーサルデザイン」が必要。しかし、開封口に直進カット性を持たせる一般的な「ティアテープ」だと、袋を開けるのに力が必要。さらに、粘着剤を使用しているため、異物が付着しやすい点も問題...



■ティアテープの構造

- PET (基材:強度付与)
- AL (バリア材)
- LLDPE (シーラント:熱シール性)

改善しました!

改善

ティアテープなしでも直進カット性があり、開けやすい新素材を開発



改善点

① 軽い力でも引き裂きやすく

差異化構成による新開発のパッケージ素材を用いることで、袋の強度を保持したまま、引き裂きやすさ(引裂伝播)を大幅に改善しました。

改善点

② 異物の付着を少なく

粘着剤を使用するティアテープを使わないため、引き裂いた後の開封口への異物付着を抑えました。

シャンプー等の詰替えパウチの改善

企画の背景

注ぎ口形状の金型設計にはコストがかかるため、既存の「エンボス付き」「スパウト付き」「ストロー付き」が市場の大半を占める。しかし、「エンボス付き」「スパウト付き」「ストロー付き」、それぞれに一長一短があり、注ぎやすさとコスト性を兼ね備えた、注ぎ口形状が今までなかった...



エンボス付き



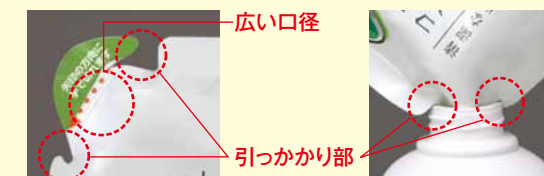
スパウト付き



ストロー付き

改善

注ぎやすさとコスト性を併せ持つ、オリジナルの注ぎ口形状を開発



改善点

① 口径を広くして注ぎやすく

オリジナルの金型設計で、注ぎ口の口径を拡大。詰め替えやすくするとともに、引っかかり部を作ること、注ぎ入れる際の安定性を高めました。

改善点

② 濡れた手でも開封しやすく

粒子の粗いマットインキを開封口に印刷。濡れた手でも滑りにくく、開けやすさを高めました。

ステークホルダーからの期待



株式会社
ジェイ・エム・エス
第三営業部
カテーテルシステム課 課長
内田 和彦様

同じ目線で有機的に連携しながら、医療貢献に向けて取り組みたい。

点滴セットから血液透析製品、心臓手術製品まで幅広く取り扱う医療機器総合メーカーの弊社は、企業憲章に「患者様第一主義」「ヘルシーでオープンな企業風土」「社会との共生」を掲げています。その企業理念、法令遵守の精神、企業活動の姿勢は、グンゼさまの理念とも重なっており、貴社はまさに同じ目線で医療貢献を目指すことができる大事なお取引先さまです。本業を通して関わるお客さまからの声、ご期待にしっかりお応えする取り組みに向け、今後とも有機的に連携していけると幸いです。

担当者の声



グンゼ包装システム株式会社
営業統括部 西日本販売一課
千原 亮

商品メーカーさまと消費者の方、双方ご満足いただけるパッケージを追求。

グンゼ包装システム(株)は、消費材を包むパッケージを生産しています。パッケージは商品の顔であり、商品を保護するものです。そのデザインにはお客さま(商品メーカーさま)のこだわりがあり、機能には消費者の方に「こちよく」ご使用いただくための工夫が施されています。私たちは、お客さまと消費者の方に「こちよく」ご満足いただけるパッケージを提供するべく、技術開発や製造部門と連携しながら、日々改善と提案活動を行っています。

3 地域社会のために

地域や社会を ‘こちよく’するために

事業活動を通じた社会貢献やグンゼラブアース倶楽部による協働事業を通じて、地域社会との共存共栄を図ります。



活動① 京都モデルフォレスト運動*

京都府が推進する「京都モデルフォレスト運動」の趣旨に賛同し、グンゼ創業の地である綾部市の森を守り育てる活動を行っています。2013年度は4回実施し、グンゼグループ延べ96名、外部団体（林業大学）延べ15名が参加しました。活動に参加することによって、環境に対する意識が高まり、自然を愛する心が養われました。



活動② 福知山復旧支援 チャリティRUNを開催

2013年11月23日に「福知山復旧支援チャリティRUN」を尼崎市記念陸上競技場で開催しました。チームでフルマラソンを走るフルマラソン駅伝や子どものかけっこ教室など、盛りだくさんの大会に社内外から多くのランナーが参加しました。ランナーから集められた寄付金257,377円は福知山市へ全額寄付いたしました。



災害義援金活動報告

2013年度は、台風18号・台風26号・台風30号により被災された地域に、従業員と会社から合計約126万円の寄付を実施しました。

	従業員	会社	合計	支援先
台風18号被害（福知山）	193,939円	193,939円	387,878円	中央共同募金会
台風26号被害（大島）	208,457円	208,457円	416,914円	中央共同募金会
台風30号被害（フィリピン）	226,479円	226,479円	452,958円	日本赤十字
総額	1,257,750円			

担当者の声



CSR推進室
入江 教夫

地道な活動を継続しながら、 新しい取り組みにも挑戦していきます。

社会貢献と人権を担当しています。グンゼが社会の中で必要とされる企業として、その存在価値を発揮できるよう考える毎日です。グンゼラブアース倶楽部や京都モデルフォレスト運動など、地道な活動を継続することでステークホルダーや地元の方々との信頼関係を築きながら、新しい取り組みにも挑戦したいと思います。また会社を離れても、一個人として地域社会の中で常に目標を持ちながら、充実した生活を目指していきます。

活動③ グンゼラブアース倶楽部

グンゼラブアース倶楽部は、グンゼ創立110周年記念の社会貢献事業として2006年に発足し、今年で9年目になります。会員から募った寄付金と会社のマッチングシステムによるNPO団体等への寄付や、協働事業を通じて社会に貢献しています。

2013年度は、16団体への支援[20万円×14団体、10万円×2団体／合計300万円]を実施いたしました。（支援先団体はP29をご参照ください）



グンゼラブアース倶楽部マーク



NPO法人 森は海の恋人
副理事長 島山 信様

漁師が山に木を植える「森は海の恋人植樹祭」は今年で26年目を迎えます。これまで、海を豊かにするための森づくりや、森・里・海のつながりを感じられる人材の育成に力を入れてまいりました。東日本大震災による大津波では多くのものを失い、また海からは生物が消えたかのように見えました。しかし、現在は豊潤な海へと蘇りつつあり、また、地盤沈下の影響で生まれた湿地や干潟は生物にあふれ、未来を担う子どもたちが多くのことを学べる良質の学びの場にもなっています。震災で全てを失ったわけではなく、ある側面においては、以前よりも豊かな自然環境へと生まれ変わるチャンスを得ること

ができたとも見ることができます。こうした環境を活かし、海の体験学習では、森と海とのつながりや、自然と人間社会とのつながりを肌で感じられるよう心掛けた活動を行っています。また少しずつではありますが受け入れ環境も整い始めたことから、全国から多くの方々にお越し頂けるようにもなりました。

皆さまからの温かなご支援により、これらの活動が展開できたことを心より感謝しております。また、ぜひ当地に足をお運びください。さまざまな「つながり」を知り、自ら体験することで新しい「自然観」が生まれることでしょう。

湿地でのアサリ調査



認定NPO法人 カタリバ
広報・ファンドレイジング部
サブディレクター
善木 真理子様

「生徒のためにカタリ場をぜひ導入したい!」という学校があっても、特に公立高校等では実施予算を捻出するのが難しいのが現状です。そんな中で、ご支援により多くの子どもたちに

認定NPO法人カタリバは「生き抜く力を、子ども・若者へ」という理念のもと、高校生向けのキャリア学習プログラム「カタリ場」と、被災地の放課後学校「コラボ・スクール」の2つの活動を行っています。グンゼラブアース倶楽部さまには、高校生より少し年上の学生ボランティアが訪問し、一緒に将来について語り合う授業「カタリ場」へご寄付をいただきました。

授業を届けることができたこと、心より御礼申し上げます。また、遠路はるばる授業へも足をお運びくださり、「しっかりと現場を見届け、直接コミュニケーションをとってくださる」姿勢にも、大変感銘を受けました。今後もいただいたご支援とお気持ちを、子どもたちへ「きっかけ」という形で届けてまいりたいと思います。



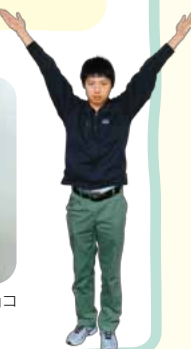
「カタリ場」の授業風景

■ ACE「スマイル・ガーナ プロジェクト」への参加

チョコレートの売上の一部がガーナのカカオ畑で働く児童を労働から解放し、学校に通えるように支援する、ACE「スマイル・ガーナ プロジェクト」に役立っています。また、陸前高田市の就労支援施設に袋詰めと発送業務を委託しており、ガーナの子どもたちと東日本大震災被災地への「ダブル支援」につながっています。2013年度はグンゼグループ従業員で合計4,056個のチョコレートを購入しました。



しあわせを運ぶんどう虫チョコ



4 従業員との関係において

‘こころよい’職場風土を創るために

多様な人財が明るく楽しく元気よく働き、会社に誇りを持てるような‘こころよい’職場風土の創造に努めます。



活動① 職場の元気力向上プロジェクト

風通しのよい職場環境のもと、一人ひとりが仕事に責任とやりがいを持って取り組めるよう、本社機能部門が連携して『職場の元気力向上プロジェクト』を推進しています。2013年度は、『明るく楽しく元気よく調査(従業員満足度調査)』を実施し、『職場の風通し改善』と『管理職の意識改革・レベルアップ』に取り組みました。

プロジェクトの位置づけ

明るく楽しく元気よくプロジェクト (ATGプロジェクト)

(国内の事業所ごとに課題・目標・計画を設定して推進)

● 職場の風通し向上 ● 職場の元気力向上

支援 ↔ 連携

職場の元気力向上プロジェクト

(本社機能部門による施策)

● 各種研修会の充実 ● 管理職の意識改革

■ 職場の風通し改善

①各事業所のニーズを集約し各種研修会を実施

種 類	実施事業所数
マナー(ビジネスマナー、電話応対)	13
経営理念(創業の精神)伝承	6
コミュニケーション	10
CSR・ハラスメント防止	17
その他(タイムマネジメント、リーダーシップ)	2
合 計	48

②理念、行動規範等をまとめた小冊子「グンゼの是」を全従業員に配付
③創業月間(8月)に研修用ビデオ作成、ビデオ鑑賞ならびに交流会を実施

■ 管理職の意識改革とレベルアップ

①経営幹部対象「経営理念研修会」の実施(30名受講)
②管理職対象ファシリテーション研修会の実施(76名受講)
③目標管理・中間面接の徹底によるコミュニケーション強化



ファシリテーション研修会

2013年度 明るく楽しく元気よく調査(従業員満足度調査)結果

2013年度実績
総合満足度
3.45

2014年度目標
総合満足度
3.65

■ 実施時期:2013年10月
■ 調査対象:グンゼグループで勤務する構成員
2011年度まではCSRアンケート。
2012年度からは従業員満足度調査。

回収率	配 付	回 収	回 収 率
2011年度	6,399人	5,440人	85%
2012年度	6,286人	5,343人	85%
2013年度	5,768人	5,363人	93%

① 私の所属している部署は風通しがよい

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	43.9	22.5	33.6	
2013	42.8	23.9	33.3	

② お互いの仕事に関心をもち、助け合いながら仕事を進めている

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	64.2	11.3	24.5	
2013	61.1	12.6	26.3	

③ 上司はメンバーの様子に注意を払い、タイミングよく声をかけている

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	49.0	15.8	35.2	
2013	46.1	18.0	35.9	

④ 今の上司のもとで成長することができると思う

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	38.5	16.7	44.8	
2013	36.9	17.3	45.8	

⑤ 今の仕事にやりがいを感じている

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	47.7	13.2	39.1	
2013	46.1	13.5	40.4	

⑥ この会社の一員であることに誇りをもっている

	はい	いいえ	どちらでもない	(%)
2012	57.5	10.7	31.8	
2013	54.2	11.3	34.5	

活動② 明るく楽しく元気よくプロジェクト(通称:ATGプロジェクト)

グンゼグループの国内事業所で展開している「明るく楽しく元気よくプロジェクト」では、プロジェクトの推進単位(事業所)ごとに目標値を設定し、‘こころよい’職場づくりを目指しています。2013年度は、女性社員がリーダーとなってプロジェクトを推進し、各事業所でさまざまな取り組みを実施しました。

事業所の活動紹介

① 職場ミーティング

アパレルカンパニー中四国販売課では、全員参加ミーティングを毎月開催し、活発に意見交換しました。



④ 風通しカフェ

船場事業所では、風通しをよくするためにできることを管理職同士で議論し、各自行動宣言を行いました。



⑦ コミュニケーション研修

グンゼ物流(株)宇都宮物流センターでは、全従業員を対象とした研修を実施しました。



② 商品開発

福知山配送センターでは、女性社員が中心となって女性向け商品の企画を行いました。



⑤ 社長とのランチミーティング

東京支社ではATGメンバーと社長がランチミーティングを開きました。



⑧ 電話応対研修

お客様相談室員らが講師となり、6事業所で電話応対研修を開催しました。



③ あいさつ運動

各事業所で「あいさつ運動」や「さん付け運動」を展開しました。写真は東北グンゼ(株)。



⑥ きらきら研修会

福島プラスチック(株)では講師に白井取締役を招き、管理職・女性社員を対象に研修会を開催しました。



明るく!楽しく!
元気よく!



活動③ 人権啓発活動

人権尊重の企業風土を醸成するため、「大阪同和・人権問題企業連絡会」など、社外の人権団体に参画し、各種人権セミナーに参加しています。また、毎年「企業倫理月間」には作文、「人権週間」には人権標語の募集を行い、人権標語の入選作を社内公募したポスターに掲載して各事業所に配布し、人権意識の啓発に努めています。



人権標語ポスター



4 従業員との関係において

活動④ 女性活躍推進の取り組み

2013年4月から人事・総務部傘下に「女性きらきら推進室」を設置しました。社長直轄プロジェクトのひとつ「女性きらきらプロジェクト」と連携し、『“個人のチカラを十分に発揮し”“きらきら輝ける働きがいのある”“男女フェアな”会社』を目指して、女性フォーラム開催、メンタリング制度*導入、女性従業員によるアパレルレディス商品のモニター試着やパッケージ評価の実施などを通じた女性の活躍推進を図っています。



女性きらきらフォーラム

2013年7月23日に、女性総合職のキャリア開発支援およびネットワーク構築を目的とした、第1回「女性きらきらフォーラム」を開催。経営幹部15名と女性総合職74名が参加しました。社長のメッセージ、当社の現状説明、先進企業における女性活躍の取り組みについての講演、グループワーク、白井取締役の講演などを行いました。グループワークでは各自の現在までのキャリアの共有により、多様な働き方への共感や理解を深める機会となりました。



女性きらきらフォーラム



管理職座談会

■現状と目標

	2012年	実績(2013年度)	目標(2017年度)
「この会社は、女性が活躍している会社だと思う」注	26%	→ 27%	40%
総合職・地域総合職における男女の比率	95:5	→ 94:6	89:11
女性総合職・地域総合職人数	87人	→ 93人	173人
総合職・地域総合職に占める管理職人数	4人	→ 6人	14人

注 明るく楽しく元氣よく調査(従業員満足度調査)結果より

担当者の声



人事・総務部
女性きらきら推進室
室長代理
東口 仁美

男女ともに働きやすい職場環境や
仕組みづくりを進めています。

女性活躍推進を担当部門だけでなく会社全体の活動としていくために、たくさんの方と意見交換していきたいと思っています。2013年に実施した管理職座談会では「従業員全員の働き方を変えることが女性活躍の鍵」であり、男女ともに働きやすい職場環境や仕組みづくりが大切だと感じました。これからも施策を通して、より良い環境づくりをすすめていきたいと思っています。

活動⑤ ハラスメント防止、労使の取り組み

グンゼグループでは、ハラスメント相談窓口を労使共同で設置し、ハラスメント問題に関する情報共有・協議を定期的に行っています。また、新任の相談窓口担当者を対象とした「相談窓口担当者研修(基礎編)」を毎年11月に開催。担当者はハラスメント防止規程や相談体制、相談対応の基本を習得し、相談受付から解決までの流れを理解したうえで相談を受けるようにしています。2013年度から経験者を対象とした応用編を別途開催し、相談窓口担当者のスキルアップを図るよう努めています。

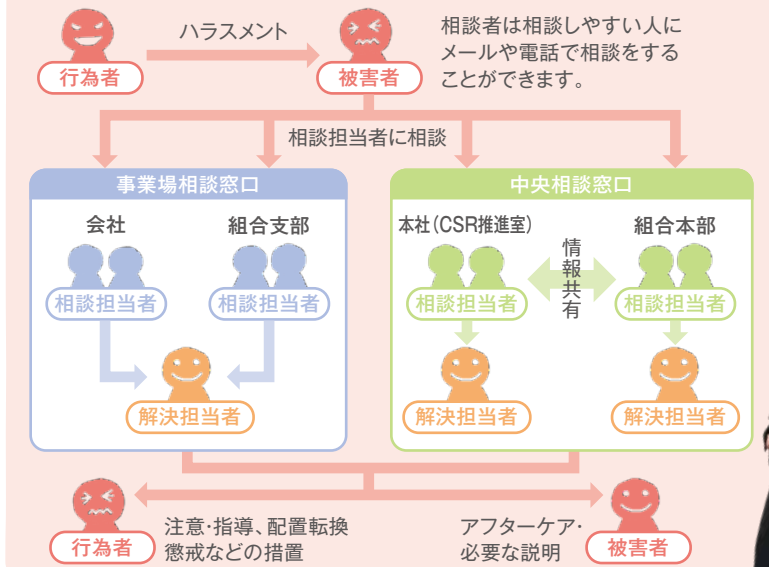


相談窓口担当者研修(応用編)

中央相談窓口に寄せられた相談内容の大半が労務管理上の問題です。直属上司等に相談しづらいため、中央相談窓口相談する人が多いと考えています。グンゼグループでは相談しづらい雰囲気なくすために、明るく楽しく元氣よくプロジェクト等を通じて、職場内の風通しを向上させる取り組みを行っています。2013年度は各事業所で「コミュニケーション研修」や「ハラスメント防止研修」を開催、約1,000名が受講しました。

2014年度はハラスメントに関するアンケート調査の結果、被害があったと回答した人の割合がグループ全体平均よりも高い事業所を対象に、ハラスメント防止研修会を開催する予定です。

■相談から解決に向けたフローチャート



■中央相談窓口寄せられた相談内容

相談項目	2013年度			2012年度
	会社窓口	組合窓口	合計	合計
職場の人間関係	10	1	11	21
セクシュアル・ハラスメント	1	0	1	8
パワー・ハラスメント	5	0	5	11
職場の規律	2	0	2	6
メンタルヘルス	2	0	2	3
労働時間管理	4	1	5	0
その他	18	4	22	28
合計	42	6	48	77

■ハラスメントに関するアンケート調査結果注

ハラスメントの被害について (「はい」と回答した人の割合)	2013年度	2012年度
私は過去1年間に「セクシュアル・ハラスメント」の被害を受けたことがある	2.7	2.4
私の所属している部署では過去1年間に「セクシュアル・ハラスメント」の被害があった	4.5	5.5
私は過去1年間に「パワー・ハラスメント」の被害を受けたことがある	9.1	8.7
私の所属している部署では過去1年間に「パワー・ハラスメント」の被害があった	12.2	11.7

注 明るく楽しく元氣よく調査(従業員満足度調査)結果より

ステークホルダー
からの期待



グンゼ労働組合
中央執行委員長
内藤 達也

労使協力して職場の風通しをよくし
「ハラスメントのない職場」へ。

ハラスメント防止には「職場の風通しが良好であること」が重要であり、組合はコミュニケーション能力を向上させる教育に取り組んでいます。ハラスメントと感じるかどうかは、個人の受け止め方によるところが大きいため、会社には従業員全員を対象として「個人によって考え方や感じ方が違う」ことを理解するための教育の実施を期待しています。

従業員との関係において

5 地球環境のために

地球環境との共存共栄を目指して

環境に対する社会的責務を認識し、地球環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて地球環境との共生に努めます。



グンゼ環境憲章とは

わたしたちには祖業である製糸業を通じて桑の栽培、養蚕という自然の恵みを受けながら事業を営んできた歴史があります。グンゼ環境憲章は将来にわたり自然の循環を尊重し環境の保全に努め、地球・社会との共存共栄をはかることを表明したものです。

グンゼ 環境憲章

検索

活動① アクションプラン(目標と2012/13年度の実績)

(対象:国内事業所)

項目	基準年度 実績値	2012年度 実績	2013年度 実績	2013年度 目標	目標 達成状況	2014年度 目標	備考
CO2排出量(t)	98,288 (1990年)	98,013 (69,837) ^{注1}	103,770 (68,161)	97,000 (69,140)	△	102,700 (67,400)	電気事業者別のCO2排出係数により算定
CO2排出量(原単位) [※] (t/売上・億円)	84.7 (2010年)	86.4	88.5	85.5	△	85.2	
運送エネルギー(ℓ/t)	40.0 (2006年)	39.5	37.4	39.1	○	37.0	
総発生量(t)	10,234 (2004年)	8,198	8,702	8,100	△	8,600	P28参照
排出量 ^{注2} (t)	5,127 (2004年)	2,270	1,989	2,230	○	1,800	
リサイクル率(%)	69.0 (2000年)	97.6	97.6	99.0	△	99.0	
用水使用量 ^{注3} (千m³)	5,996 (2002年)	4,250	3,937	4,210	○	3,800	P27参照
PRTR [※] 対象物質取扱量(t)	383 (2000年)	108	112	107	△	110	P28参照
グリーン購入率(事務用品) ^{注4} (%)	99.0 (2008年)	92.0	96.5	100	△	100	事務用品56品目を選定、国内38事業所に実施

注1 基準年度対象事業所(社用車除く)およびCO2排出係数により算定した参考値。注2 事業所から廃棄物として廃棄物処理業者に委託したもの(リサイクル品を含む。有価物を除く)。注3 国内事業所の使用量。注4 「文具・事務用品」購入ガイドラインに沿って対象品の見直しを実施。

目標達成状況の自己評価 ○ 達成 △ 達成率90%以上

2013年度版CSR報告書の掲載データの一部に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

活動② 環境会計

環境保全活動の一環として、環境省の「環境会計ガイドライン」に基づき環境会計を公表しています。2013年度の環境保全コストは投資額92百万円、費用額が756百万円となりました。2013年度は、省エネ設備や資源循環対策への投資を行いました。費用額とは、主に人件費や設備の修繕費、設備運転のためのコストです。

<集計の基本となる事項>

【対象範囲】 グンゼ株式会社、国内グループ会社23社および海外グループ会社16社

【対象期間】 国内グループ会社 2013年4月1日～2014年3月31日
海外グループ会社 2013年1月1日～2013年12月31日

【項目分類】 環境省「環境会計ガイドライン」に沿って分類・集計。

【経済効果】 廃水処理実施効果とは、廃水処理設備設置による下水道費の削減額。特定の環境対策を行わなかった場合、想定される賠償額などのリスク回避効果(みなし効果)は採用していない。

■環境保全コスト(海外含む)

(単位:百万円)

項目	2012年度		2013年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額
公害防止対策	123	250	22	247
地球環境対策	47	197	24	173
資源循環対策	8	243	29	167
上下流コスト	2	23	17	36
管理活動コスト	42	102	0	95
研究開発コスト	0	26	0	17
社会活動コスト	0	7	0	8
その他コスト	0	10	0	13
合計	222	858	92	756

■環境保全に伴う経済効果(海外含む)

(単位:百万円)

項目	2012年度	2013年度
廃棄物処理の節減効果	200	234
資源削減効果	53	83
省エネルギー効果	188	267
廃水処理実施効果	381	330
コージェネ効果	10	11
合計	832	925

活動③ 事業活動に伴う環境負荷の低減

事業活動に伴う環境への影響を把握し、環境負荷低減と環境に配慮した商品、サービスの提供に努めています。

INPUT

エネルギー

	国内	海外
エネルギー(kℓ) [原油換算]	49,936	17,541
電気(千kWh)	126,163	54,274
重油(kℓ)	6,736	136
軽油(kℓ) ^注	0	668
灯油(kℓ)	88	0
LPG(t)	381	497
LNG(t)	1,038	0
都市ガス(千m³)	7,198	1,845

注 自家発電設備で軽油を使用

用水(千m³)

	国内	海外
合計	3,937	652
河川水	412	120
市水	475	142
地下水	2,812	17
工業用水	238	373

化学物質(PRTR対象物質)(t)

	国内
合計	112

主要原材料(t)

	国内	海外
合計	47,680	19,432
天然繊維	2,731	3,032
合成繊維	4,046	4,491
樹脂	20,191	10,070
フィルム	20,641	1,521
ガラス	60	209
鋼材	11	109

資材(t)

	国内	海外
合計	2,878	3,402
副資材	1,368	483
荷材・包材	1,492	2,899
その他	18	20

事業活動のプロセス



OUTPUT

地球温暖化物質(CO2排出量)(t)

	国内	海外
合計	103,770	29,136
生産からの排出	103,049	28,213
社用車からの排出	721	923

大気汚染物質(t)

	国内	海外
NOx [※]	36.4	6.4
SOx [※]	7.5	1.0
ばいじん	0.9	—

化学物質(PRTR対象物質)(t)

	国内
合計	33.0
廃棄物としての移動	10.9
環境への排出量	22.1
大気への排出:16.9 水系への排出:5.2 土壌への排出:0.0	

水質汚濁物質

	国内	海外
廃水量(千m³)	1,640.2	166.6
BOD [※] (t)	6.4	0.9
COD [※] (t)	26.7	2.8
SS [※] (t)	8.5	1.3

廃棄物総発生量(t)

	国内	海外
合計	8,702	2,015
焼却・埋処分分量	208	229
リサイクル量	1,781	48
有価物量	6,713	1,738
リサイクル率	97.6%	88.6%

製品(t)

	国内	海外
合計	43,007	18,702
繊維	6,981	7,722
フィルム	30,021	10,865
印刷物	4,285	0
その他	1,720	115

※についてはP28の環境データページの用語解説をご参照ください。

担当者の声



CSR推進室
久保 忠文

環境データの見える化によって 全従業員の環境意識を高めていきたい。

地球環境を守るため、省エネ活動および大気・水質汚染防止のための環境事故想定訓練やISO14001教育を定期的、継続的に実施しています。CSR推進室では、2012年に各事業所のデータを集計し、CO2排出量等を算出する『環境データベース』を構築し、データ集計の精度アップを図りました。今後はこのシステムを有効に活用し、『データの見える化』を進めることによって、担当者や構成員の環境意識の向上を図りたいと考えています。

活動④ 太陽光発電事業

地球環境を守り、地域の自然と共生するために、グンゼグループでは再生可能エネルギー※の固定価格買取制度を利用し、2013年11月から太陽光発電事業を開始しました。

■ グンゼ宇都宮太陽光発電所



■ グンゼ福島太陽光発電所



■ グンゼ江原太陽光発電所



発電所名	総面積	年間発電電力量	CO ₂ 排出削減量	売電開始日
グンゼ宇都宮太陽光発電所 (栃木県)	地上 15,700m ²	140万kWh/年 (一般家庭300世帯分)	770t/年 (森林150ha分)	2013年11月29日
グンゼ福島太陽光発電所 (福島県)	地上 9,900m ² 屋根 10,500m ²	173万kWh/年 (一般家庭370世帯分)	940t/年 (森林190ha分)	2014年1月24日
グンゼ江原太陽光発電所 (兵庫県)	地上 38,500m ²	213万kWh/年 (一般家庭460世帯分)	1,170t/年 (森林230ha分)	2014年2月3日

活動⑤ 内部環境監査員養成研修会

環境法がめまぐるしく改正されるなか、継続的に環境保全活動を実施・維持する仕組みを構築することが求められています。グンゼグループでは内部監査の実施、システムの改善、パフォーマンスの継続的改善につなげるため、ISO14001に基づき、内部環境監査員養成研修会(初級編・上級編)を毎年開催しています。両コースとも当社グループに合わせたオリジナルのカリキュラムやテキストを採り入れ、より実践的な内容になるよう工夫しています。今後も内部環境監査員のスキルアップを図るとともに、全構成員の環境意識の向上を目指し、環境教育を徹底していきます。



研修会の様子

活動⑥ 全社省エネ合同委員会

グンゼグループでは、全社省エネルギー統一目標を毎年設定し、その目標を達成するために各事業所の省エネルギー担当者が出席する「全社省エネ合同委員会」を開催しています。会議では目標達成状況の確認や改善事例紹介、次年度実施計画等の検討を行い、目標達成に向けた情報の共有化を図っています。今後もグループ一丸となって省エネに取り組んでいきます。



委員会の風景

※については巻末折り返し部分の用語集をご参照ください。

各部門におけるCSR推進活動

当社グループでは、本社機能部門、工場、営業所にCSR推進の責任者と部門別CSR推進委員会を設置し、各部門(事業所)においてCSR活動を推進しています。毎年、各部門のCSR推進活動実績を集計し、優良事業所を表彰するとともに、CSR推進リーダー会議等で優れた取り組みを共有することによって、グループ全体へのCSR活動の浸透を図っています。

■ 2013年度CSR活動優良事業所表彰結果

工場部門	平均点64.0点(前年58.3点)
第1位 研究開発部(京都)	79.7点
第1位 研究開発部(滋賀)	79.5点
第3位 メディカル事業部(綾部)	75.2点
第4位 矢島通商(株)	72.7点
第5位 倉吉グンゼ(株)	71.7点

オフィス部門	平均点50.9点(前年43.4点)
第1位 綾部本社(レッグ物流含む)	67.0点
第2位 (旧)大阪第一生命ビル	66.0点
第3位 北関東営業部	64.0点
第4位 グンゼグリーン(株)	63.0点
第5位 宇都宮物流センター	62.0点

■ 評価ポイント

工場部門第1位 研究開発部(京都・滋賀)
京都・滋賀両部門ともCSR推進体制が確立され、CSR推進活動が浸透。京都では、ハラスメント防止や風通し改善活動のほか、自治体や就労支援施設への協力など、地域社会と友好な関係を構築。滋賀では、『もったいない活動』やチャリティー募金などの社会貢献活動に積極的に取り組んでいるほか、廃棄物発生量の削減やグリーンカーテンの設置など環境活動に注力している点が評価されました。

オフィス部門第1位 綾部本社(レッグ物流含む)
綾部本社として対外的な窓口を務め、率先して地域貢献活動に参画。CSR活動の一環として独自に『ハラスメント防止週間』を設けるなど、ハラスメント防止や風通し改善活動を積極的に展開。また、環境面においても昨年に引き続きCO₂削減に努め、事業所周辺の清掃活動などに率先して取り組んでいる点が評価されました。

■ 表彰基準

評価項目	指標	工場部門	オフィス・サービス部門
CSR活動	労災、加害交通事故、火災事故(各5点)	15点	15点
	ワークライフバランス	5点	10点
	人権啓発活動	5点	5点
	CSR推進活動	10点	10点
	CSR推進活動	5点	5点
	風通し改善活動	10点	10点
環境活動	社会貢献活動	10点	15点
	小計	60点	70点
	CO ₂ 削減	10点	—
	総量前年実績比	—	10点
	廃棄物発生量	5点	—
	総量前年実績比	—	10点
環境活動	リサイクル	3点	—
	リサイクル率実績	—	—
	水使用量	4点	—
	低公害車	3点	—
	EMS※運用(総点検・自主監査結果)	10点	—
	環境ストロングポイント	5点	10点
小計		40点	30点
コンプライアンス減点		3~5点/件 減点	3~5点/件 減点
合計		100点	100点

注 内容・件数によりマイナス評価点になる場合があります。

第5回CSR報告書検定実施

CSR報告書の活用と一人ひとりのCSR活動につなげるため、第5回グンゼCSR報告書検定を実施。全国53事業所から3,677名の方が挑戦し、244名のCSR博士が誕生しました。

認定証



6 株主・投資家のために

企業価値向上を目指して

企業価値向上を目指して、適正な情報開示と利益還元に努め、株主さまや投資家さまとの信頼の輪を広げます。



活動① 情報のタイムリーな発信

■ ホームページの充実

<グンゼIRサイト> <http://www.gunze.co.jp/ir/>

わかりやすい情報発信のために、ホームページでの動画配信など、投資家向けコンテンツの充実に努めています。

■ 企業情報の発信

「グンゼってどんな会社？」なのかを動画にて説明し、「決算説明資料」についても音声付きで掲載しています。また、IRサイト内のIR資料室では、「決算短信」「決算公告」「有価証券報告書」など、いろいろな資料が確認できます。その他、「中期経営計画」などについても、タイムリーに発信しています。



グンゼIRサイト

■ 株主さまとの直接対話

個人投資家や機関投資家と対話の場を設け、事業内容や経営状況を直接説明しています。

■ 個人投資家さまとの対話

証券会社主催の会社説明会にて、事業内容や今後の計画などを、個人投資家さまに直接説明・報告しています。



個人投資家向け説明会

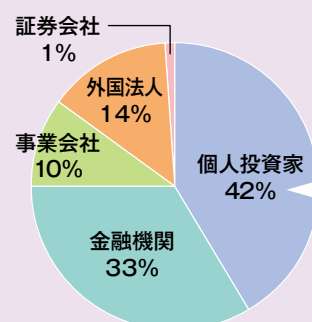
■ 機関投資家さまとの対話

決算期・中間決算期の説明会では、経営トップがアナリスト・機関投資家さまに直接経営状況を説明しています。さらに、IRチームが機関投資家さまなどを定期的に訪問し、事業戦略などを説明し、ご理解をいただいております。

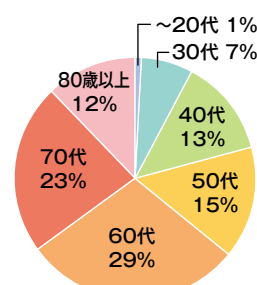


株主さまのプロフィール

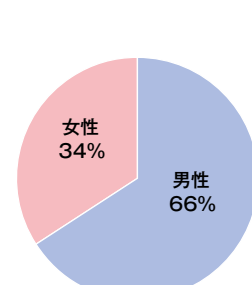
■ 株主構成（自己株式を除く）



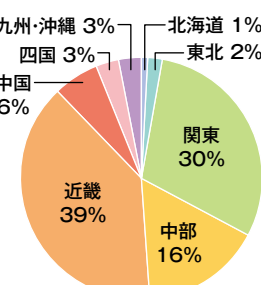
■ 年齢構成



■ 性別



■ 地域別



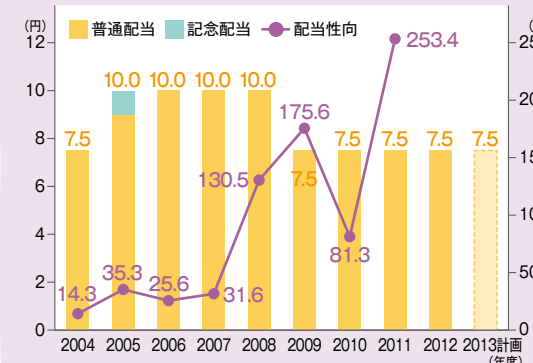
活動② 株主さまへの利益還元

グンゼグループは株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけ、中長期的な業績見通しに基づき、安定的かつ継続的な株主還元を行っています。

① 安定的な配当

安定配当の維持を基本とし、連結配当性向50%程度を目安としています。業績と財務状況などを総合的に判断しながら配当を実施しており、1950年株式上場以来、1株当たり7.5円以上の配当を継続しています。

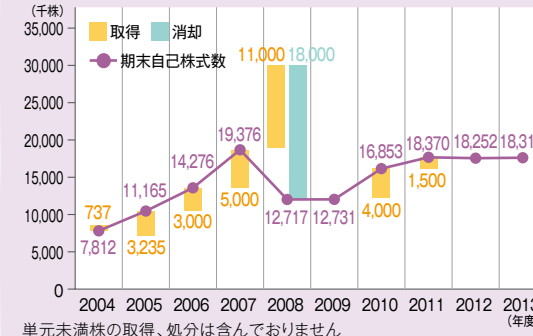
■ 配当および配当性向の推移



② 機動的な自己株式取得

機動的な自己株式の取得により、資本効率の向上を図っています。

■ 自己株式の取得と消却の推移



単元未満株の取得、処分は含んでおりません

③ 株主優待制度の充実

株主さまのご支援に感謝して、株主優待を実施しております。

【優待内容】

- (1) 当社通販カタログの30%割引(3月末及び9月末の株主さま)
- (2) 保有株数と保有年数に応じた商品贈呈(9月末の株主さま)
「当社商品」「当社インターネット販売(グンゼストア)で利用できるクーポン」「株主さまによる寄付」から選択

■ 贈呈相当額一覧

保有年数	3年未満	3年以上5年未満	5年以上
保有株数			
1,000~2,999株	2,000円相当	3,000円相当	4,000円相当
3,000株以上	4,000円相当	6,000円相当	8,000円相当

■ 株主優待制度による東日本大震災への寄付金額

- あしなが育英会 1,516,000円
- 赤い羽根募金・ボラサポ支援金 632,000円

計 2,148,000円

2011年度からの累計は6,482,000円となります。多くの株主さまより温かいご芳志を賜り心より御礼申し上げます。

■ 2013年度の状況

2013年度の実績では、長期保有比率およびインターネットのご利用率が増加しています。

- ① 長期保有(5年以上)比率44%
(前年より4ポイント増加)
- ② インターネット申込み比率25%(前年より5ポイント増加)
- ③ クーポン受取り比率17%(前年より7ポイント増加)

	12年度実績	13年度実績
長期保有(5年以上)比率	40%	44%
インターネットでの申込み比率	20%	25%
クーポン受取り比率	10%	17%

担当者の声



広報IR室
田中 一行

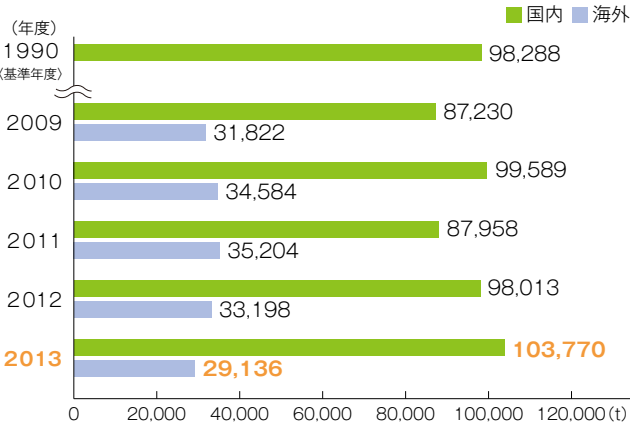
より多くの投資家さまの理解と共感を獲得したい。

日頃のIR活動を通じて、株主・投資家の皆さまのグンゼグループへの理解と共感を少しでも高め、当社グループのよりよい理解者と支援者になっていただけるように、適切・適正はもとより、わかりやすくタイムリーなグループ情報の開示・発信に、微力ながら努めてまいります。

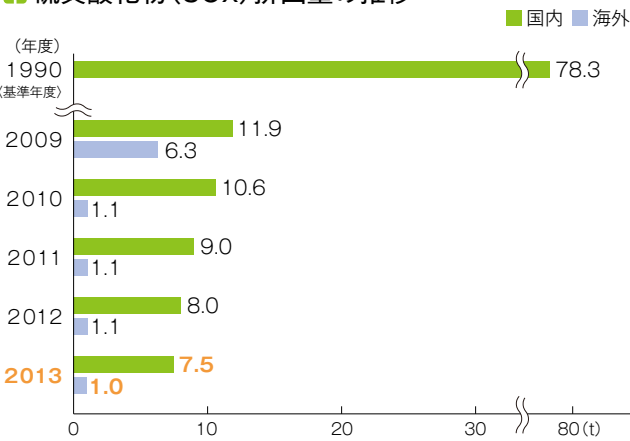
環境データ

CO2排出量の推移

車両排出量は2002年度（海外については2004年度）より調査を開始（株）つかしんタウンクリエイイトは2010年度より調査を開始



硫黄酸化物 (SOx) 排出量の推移



汚染賦課金負担金額（グンゼグループ）

	2011年度	2012年度	2013年度
金額(万円)	1,277	1,231	1,200

SOx・NOx測定結果

ボイラ

	ばいじん (g/m³)	NOx (ppm)	SOx (k値)
規制値	0.25~0.3	180~250	8.76~17.5
測定結果	0.001~0.022	29~123	0.03~1.84

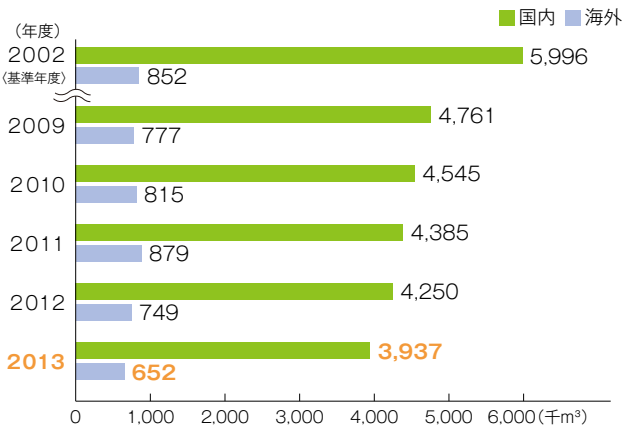
コージェネシシステム

	ばいじん (g/m³)	NOx (ppm)	SOx (k値)
規制値	0.10	950	8.76
測定結果	0.001~0.022	18~740	0.068~0.71

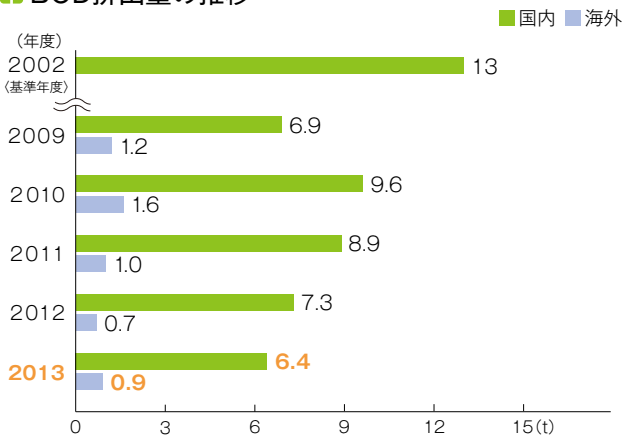
地域により規制値が異なります

用水使用量の推移

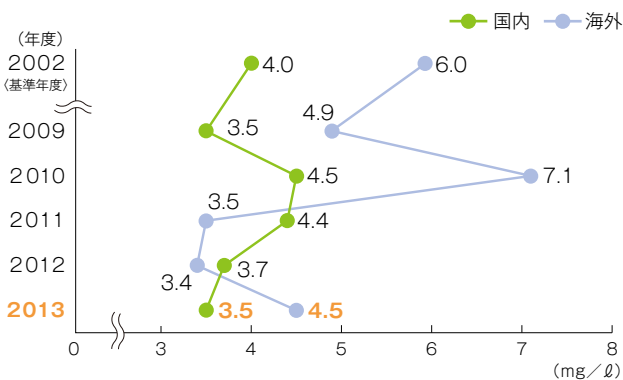
オフィス・サービスと物流は2002年度より調査を開始



BOD排出量の推移



BOD濃度の推移（放流1ℓのBOD値）



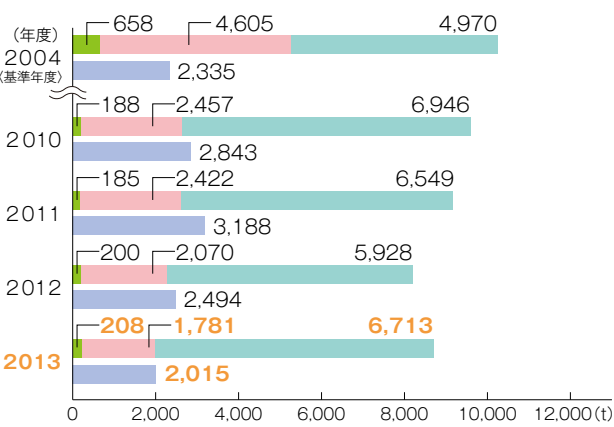
水質管理基準と2013年度実績

	単位	国の基準	自主基準	実績値	
				国内	海外
BOD	mg/ℓ	40~120	10以下	1~10(3.5)	0~10(4.5)
COD	mg/ℓ	40~120	30以下	8~28(16.9)	7~26(16.1)
SS	mg/ℓ	40~150	10以下	1~15(5.8)注	4~25(9.1)注
透視度	cm	なし	50以上	52~99(74)	50~85(71)
着色度	倍	なし	30以下	4~30(15)	10~20(15)

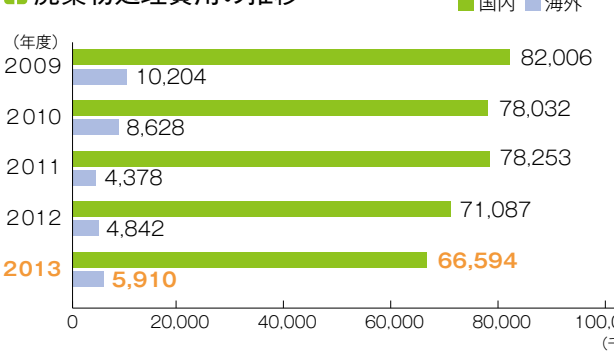
注 実績値は、月度ごとに計測した最大値です。一時的に自主基準を超えた場合は、速やかに改善処置をしています。

廃棄物発生量の推移

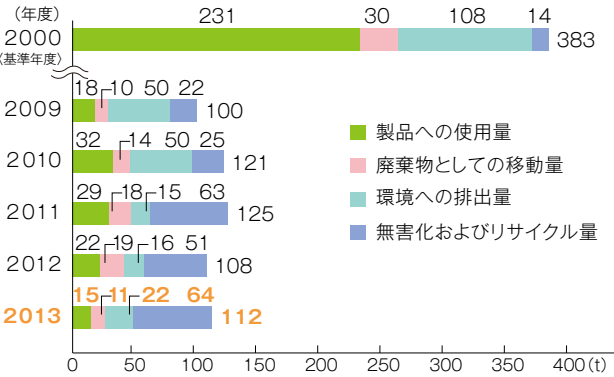
焼却・埋立処分量 リサイクル量 有価物量 海外



廃棄物処理費用の推移



PRTR対象物質取扱量と移動量の推移



用語解説

BOD (Biochemical Oxygen Demand)	生物化学的酸素要求量（河川の汚濁指標）。微生物が水中の有機物を酸化分解するときに必要な酸素の量 (mg/ℓ)。
COD (Chemical Oxygen Demand)	化学的酸素要求量（海域や湖沼の汚濁指標）。水中の汚濁物質が化学的に酸化するときに必要な酸素の量 (mg/ℓ)。
CO2排出量 (原単位)	CO2の排出量を売上金額で割ったもの。
NOx (Nitrogen Oxides)	窒素酸化物。大気汚染防止法の規制物質。
PCB (PolychlorinatedBiphenyl)	ポリ塩化ビフェニルの略称。電気絶縁性が高いため変圧器の絶縁油等に使用されていたが、生態系への影響が判明し、製造・使用が原則禁止となっている。
PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)	有害化学物質が環境中にどの程度排出されたか、あるいは事業所外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組み。
SOx (Sulfur Oxides)	硫黄酸化物。大気汚染防止法の規制物質。
SS (Suspended Solids)	浮遊物質。水中に浮遊している物質の量 (mg/ℓ)。

高濃度PCB入り機器の保管数と登録数（2014年3月末）

機器名	総保管数	登録数	未登録数
コンデンサー（高圧）	18台	17台	1台
コンデンサー（低圧）	72台	72台	0台
その他（ウエス）	1缶	—	1缶
蛍光灯の安定器	1,284台	0台	1,284台

低濃度PCB混入の可能性がある機器の調査状況（1989年以前に製造された機器）

機器名	調査対象数	PCB混入数	未調査数
トランス	143台	133台	10台
コンデンサー	81台	26台	55台
その他	9台	6台	3台
合計	233台	165台	68台

低公害車導入実績

		総保有台数	未対応車	★良	★★優	★★★超	ハイブリッド車
台数	2009	287	64	21	14	176	12
	2010	251	62	17	9	148	15
	2011	260	62	17	7	158	16
	2012	251	56	17	7	153	18
	2013	246	46	14	7	152	27
比率(%)	2009	100	22	7	5	61	4
	2010	100	25	7	4	59	6
	2011	100	23	7	3	61	6
	2012	100	22	7	3	61	7
	2013	100	18	6	3	62	11

人事・労務データ

■従業員の状況〈男女別／人員・平均年齢・平均勤続年数〉

	グンゼ(株)単体			連結在籍者合計
	男 性	女 性	合 計	
2012年3月31日現在	1,393人	689人	2,082人	8,963人
平均年齢	43歳04ヶ月	40歳02ヶ月	42歳03ヶ月	—
平均勤続年数	20年04ヶ月	18年04ヶ月	19年08ヶ月	—
2013年3月31日現在	1,357人	659人	2,016人	8,285人
平均年齢	43歳08ヶ月	40歳05ヶ月	42歳07ヶ月	—
平均勤続年数	20年06ヶ月	18年07ヶ月	19年10ヶ月	—
2014年3月31日現在	1,307人	629人	1,936人	7,629人
平均年齢	43歳10ヶ月	41歳00ヶ月	42歳11ヶ月	—
平均勤続年数	20年07ヶ月	19年00ヶ月	20年01ヶ月	—

グンゼ(株)単体在籍者には、「出向者を含む休職者」は含めていません。

■障がい者雇用率〈グンゼ(株)単体〉

2012年3月20日現在	2.10%
2013年3月20日現在	2.00%
2014年3月20日現在	2.27%

■労働災害・交通災害発生状況〈グンゼグループ全体〉

	労働災害		交通災害	
		内休業災害		内休業災害
2011年度	16件	7件	22件	8件
2012年度	15件	7件	29件	11件
2013年度	27件	11件	45件	13件

社会貢献活動データ

■2013年度グンゼラブアース倶楽部支援先

支援団体名
特定非営利活動法人 ロシナンテス
特定非営利活動法人 エコネットワーク津山
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
特定非営利活動法人 日本クリニクラウン協会
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
認定特定非営利活動法人 アムダ
特定非営利活動法人 シャプラニール
認定特定非営利活動法人 ACE
特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS
認定特定非営利活動法人 カタリバ
特定非営利活動法人 森は海の恋人
公益社団法人 Civic Force
公益財団法人 WWFジャパン
特定非営利活動法人 ジェン
公益財団法人 関西盲導犬協会

■育児・介護支援制度の取得状況〈グンゼ(株)単体〉

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
育児休職取得者	58人	56人	52人
育児の短時間勤務利用者	38人	40人	60人
子の看護休暇取得者	22人	18人	29人
介護休職取得者	3人	2人	3人
介護の短時間勤務利用者	0人	0人	0人
介護休暇取得者	2人	2人	0人

■もったいない活動報告

身近な社会貢献活動として、いらなくなったペットボトルのキャップ等を集めて、NPO等への寄付金として交換する活動を進めています。

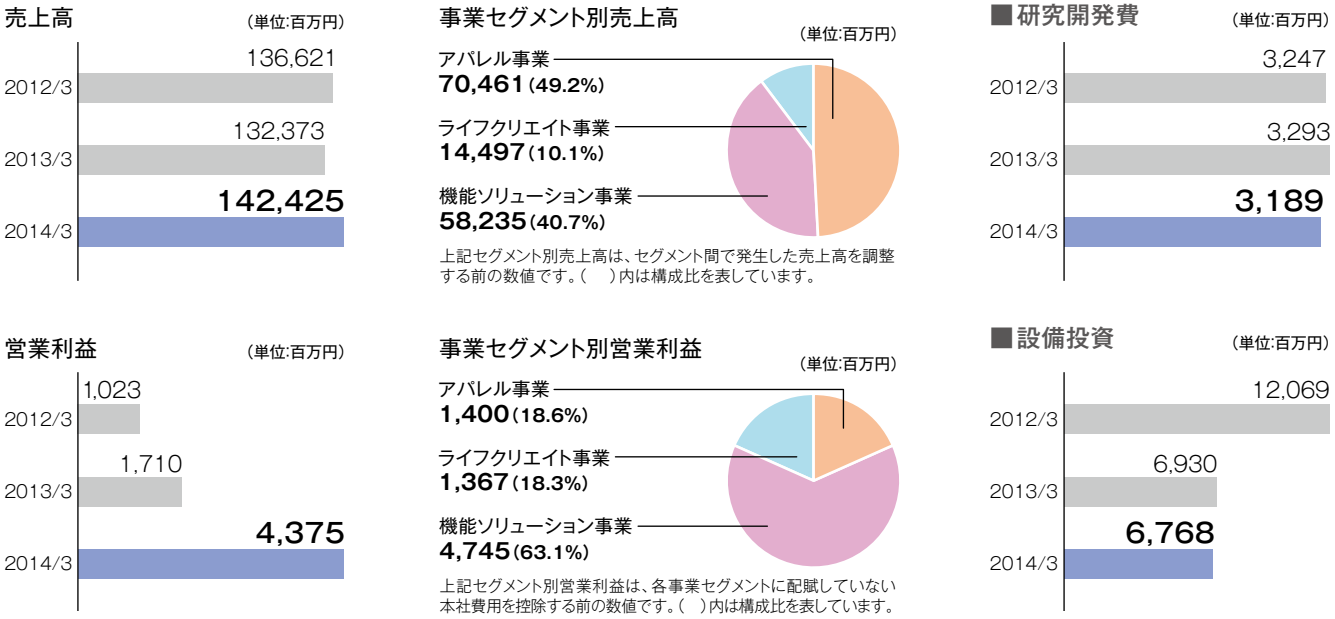
種 別	累 計 ^注	適 用
エコキャップ	1,664,925個	ワクチン 2,081人分
ブルタブ・アルミ缶回収	1,424kg	—
使用済み切手	120,616枚	—
書き損じはがき	1,617枚	—
古本	5,010冊	70,582円相当
使用済みカード	428枚	—

^注 2007年度～2013年度累計

会社概要（2014年3月31日現在）

創 業	明治29年(1896年)8月10日	本 店	〒623-8511 京都府綾部市青野町膳所1番地
代 表 者	代表取締役社長 児玉 和	大 阪 本 社	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKA オフィスタワー
資 本 金	26,071百万円	東 京 支 社	〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目10番4号 グンゼ日本橋ビル
従 業 員 数	1,936名(単体) 7,629名(連結)		
上場証券取引所	東京証券取引所		

■連結業績



■連結対象会社

■機能ソリューション事業

プラスチックフィルム 福島プラスチック株式会社／株式会社小津加工センター／グンゼ包装システム株式会社／グンゼ高分子株式会社／Gunze Plastics & Engineering Corporation of America／上海都是新包装有限公司／上海都是新塑材有限公司／青島都是新包装有限公司

電子部品 エルマ株式会社／GUNZE Electronics USA Corporation／GGI Technology Ltd.／Guan Zhi Holdings Ltd.／Dongguan Guan Zhi Electronics Ltd.／郡宏光電股份有限公司／台湾都是股份有限公司／东莞郡権電子有限公司

エンジニアリングプラスチック 綾部エンブラ株式会社

メディカル 郡是医療器材(深圳)有限公司

■アパレル事業

インナー／レッグ 東北グンゼ株式会社／出雲アパレル有限公司／養父アパレル株式会社／倉吉グンゼ株式会社／Gunze (Vietnam) co., Ltd.／Thai Gunze co.,Ltd.／山東冠世針織有限公司／郡是(上海)商貿有限公司／大連坤姿時裝有限公司／九州グンゼ株式会社／兵庫グンゼ株式会社／P.T.Gunze Socks Indonesia／株式会社トライオン／グンゼ物流株式会社／山東冠世時裝加工有限公司

繊維資材 津山グンゼ株式会社／中央繊維資材株式会社／加賀グンゼ株式会社／上海都是通虹纖維有限公司／P.T.Gunze Indonesia／郡是(上海)國際貿易有限公司

■ライフクリエイイト事業 他

グンゼ開発株式会社／株式会社つかしんタウンクリエイイト／グンゼエンジニアリング株式会社／グンゼグリーン株式会社／グンゼスポーツ株式会社／株式会社グンゼオフィスサービス

■事業内容

■機能ソリューション事業(生産財など)

- プラスチックフィルム(ペットボトル用熱収縮フィルムなど)
- エンジニアリングプラスチック(複写機・プリンターの転写ペルトなど)
- 電子部品(タッチパネル、透明導電性・光学フィルムなど)
- メディカル材料(生体内吸収性縫合糸、人工皮膚、生体内吸収性骨接合材など)
- メカトロ(印刷関連の自動省力化機器、高速製袋包装機など)

■アパレル事業(消費財)

- メンズインナーウェア
- キッズインナーウェア
- レディスインナーウェア
- ストッキング
- ソックス
- ハウスカジュアルウェア(ホームウェア、ナイトウェア)
- 繊維資材(工業用ミシン糸、産業資材)
- その他(テキスタイル、絹織物)

■ライフクリエイイト事業(サービス)

- 商業デベロッパー(商業施設の運営)
- エステイト開発(不動産の賃貸など)
- エンジニアリング(省エネ事業など)
- 温浴施設(つかしん天然温泉「湯の華廊」)
- グリーン事業(樹木・花卉販売など)
- フィットネスクラブ

関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授・博士(法学)
日本経営倫理学会 理事、経営倫理士協会 理事
経営倫理実践研究センター 上席研究員
高野 一彦 様



1 グンゼグループのCSR活動の特徴

筆者は、2012および2013年度の同報告書の第三者意見を担当させていただいた。その中で、コーポレートガバナンスと内部統制に関する記載を充実させて、投資家や消費者へのさらなる情報提供を行ってはどうか、またクライシスマネジメントのさらなる機能向上を図ってはどうか、などの提言をさせていただいた。

本年度版の同社グループCSR報告書では、そのような提言への真摯な取り組みを窺い知ることができる。たとえばコーポレートガバナンスと内部統制に関する記載は合計3頁を割き、過年度の報告書よりも充実した記載内容になっている。独立性の高い2名の社外取締役(うち1名は女性)を選任し、意思決定プロセスの透明性の確保および取締役会の監督機能の向上を図っていること、「なんでも相談ホットライン」に寄せられた通報の内容や対応状況、「リスクマネジメント委員会」に報告された事案の内容と重要リスクへの対応状況などを丁寧に開示していることなどが挙げられる。

また、クライシスマネジメントの機能向上を目的に、「部門CSR責任者会議」において、「クライシス・シミュレーション・トレーニング」を実施し、グループの経営幹部によるクライシス発生時の経営判断のトレーニングや体制の確認を行っていることなどが挙げられる。

その他にも、同社グループCSR経営にはさまざまな優れた点がある。たとえば、働きやすい職場づくりをCSRの根幹に据えて継続して取り組んでいる点である。「職場の元気力向上プロジェクト」、「ATG(明るく楽しく元気よく)プロジェクト」などの社長直轄プロジェクト、2013年

4月に設置した「女性きらきら推進室」などの活動は大変興味深い。さらに従業員とその家族が参加しての「運動会」を実施し、「職場の風通し」や「組織の一体感」を醸成するための努力を行っている。

このような活動を通して、同社がCSRにおけるさまざまな課題に真摯に取り組んでいることがわかる。同社グループのこのような取り組みが、従業員のみならず株主や消費者などのステークホルダーに評価され、結果として同社グループの企業価値の増進に寄与することを期待したい。

2 今後のCSR活動への期待

近年、事業継続計画(BCP)の策定状況をCSR報告書で開示する企業が増えている。同社グループにおいても事業継続リスクを記載しているが、発災が予測される南海トラフ地震等を想定した対策をさらに進めて、これを積極的に開示してはどうか。広域複合災害に耐える体制の構築を「継続性」の視点からさらに評価されることを期待したい。

また近年のグローバルな議論として、長期投資家に対して投資判断に資する情報を総合的に提供する必要性が議論されており、「統合報告書」はこの議論の延長線上にある。同社グループのCSR経営の優れている点を、長期投資家に対してより積極的に情報提供を行うことを目的に、「統合報告書」の採用も検討してはどうであろう。

同社グループのCSRへの真摯な取り組みに敬意を表するとともに、本CSR報告書がさらなる企業価値の増進に寄与することを期待したい。

高野先生には経営倫理実践研究センターより「クライシス・シミュレーション・トレーニング」の講師としてお越しいただくなど、特にコンプライアンスやリスクマネジメントの分野で日頃からご指導いただいております。ご指摘の「BCPの策定・開示」「統合報告書の採用」は、いずれも企業に対して社会がいま最も重要視し、期待しているものです。ご提言を真摯に受け止め、これからもより一層私たちのCSRの取り組みを成長させ、誠意をもってお伝えする報告書となるよう努めてまいります。

第三者意見を 受けて



このページを開いたまま、ほかのページをお読みいただくことができます。

英字

CCO	P9
Chief Compliance Officer(コンプライアンス担当責任者)	
CCSRO	P5他
Chief CSR Officer(CSR担当責任者)	
CEO	P9
Chief Executive Officer(最高経営責任者)	
CFA活動	P4
クロスファンクショナルアプローチ活動。組織の壁を越えて知識や技術など英知を結集し、課題解決にあたる活動。	
CHO	P5
Chief Human - Resources Officer(人事担当責任者)	
COO	P9
Chief Operating Officer(最高執行責任者)	
CSR	P1他
Corporate Social Responsibilityの略で「企業の社会的責任」と訳される。	
EMS(環境マネジメントシステム)	P24
企業等が、自主的に環境保全に関する取り組みを進めるため、環境に関する方針などを設定し、これらを達成するために取り組むための体制、手続きなどの仕組みのこと。	
IR	P2他
Investor Relationsの略。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公正に継続して提供する活動全般を指す。	
OPPフィルム	P8
野菜や菓子などの包装フィルム。曇らない機能を持たせたフィルムは中の野菜をクリアに見せることができる。	

あ行

ウーリーナイロンミシン糸	P7
ナイロン糸を「かさ高加工」し、伸縮性を付与した糸。	

か行

血管再生基材	P8
血管を再生する際に使用される生分解性の管(足場材料)。患者の骨髄から採った細胞をこの管につけると約半年で本物の血管が作られ、足場材料は体内に吸収される。現在米国で治験中。	
コアSBU	P4
強化すべき戦略的ビジネスユニット(事業、業種、商品)。	
コーポレートガバナンス	P1他
「企業統治」と訳される。株主総会や取締役の機能といった経営の意思決定のあり方を検討し、統治の仕組みによって経営の透明性や効率を確保しようとするもの。	
コンプライアンス	P9他
一般的に「法令・企業倫理・社内ルールなどを遵守すること」と訳される。広義の解釈では倫理的な判断や行動を主体的に行うこと。	

さ行

再生可能エネルギー	P23
太陽光や太陽熱、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然環境のなかで再生する“自然の恵み”から得られるエネルギー。	
シュリンクフィルム	P8
ペットボトル等のラベルに使用される熱によって収縮するフィルム。	
小集団活動	P6
経営参加の方法の一つ。概ね10名以下の小集団を構成し、従業員の自主的な共同活動によって労働意欲を高め、経営目標を達成しようとするもの。グンゼグループでは生産工場を中心に約140チームが活動を展開している。	
ステークホルダー	P1他
企業活動を行う上で関わるすべての関係先。お客さま、地域社会、取引先、株主・投資家、従業員など。	

た行

ダイバーシティ	P4
性別、年齢、価値観等の多様性。グンゼグループでは、「多種多様な考え方を積極的に活かし課題対応力を向上させること」としている。	

は行

ファシリテーション	P5他
会議やプロジェクトなどが効率的、効果的に進むように、アイデア創出、合意形成、課題解決等を支援、促進すること。その役割を担う人をファシリテーターという。	
フルファッション靴下	P7
フルファッション編機によって脚の形に編まれたストッキング。シームラインができるのが特徴。	
ポリエステルスパンミシン糸	P7
短繊維に撚りを加え、綿の風合いを出した糸。	

ま行

メンタリング制度	P19
知識や経験豊かな先輩(メンター)が、後輩(メンティー)に対して、一定期間継続して成長を支援する制度。	
モデルフォレスト運動	P15
1992年の世界地球サミットの際にカナダが提唱した持続可能な地域づくり。京都モデルフォレスト協会も2008年に国際モデルフォレストネットワークに加入した。グンゼグループは2010年より京都モデルフォレスト運動に参加している。	

ら行

リスクマネジメント	P9他
企業活動に関するリスクを把握、コントロールし、リスク回避や分散、損害・損失の予防・最小化を目指す取り組み。	